

発電所だより 2024年10月号

女川2号機の再稼働工程に係る情報をホームページで公開しています。検査や作業の実績・計画は「週報」として掲載しています。



東北電力女川原子力発電所総務部広報グループ
女川町塚浜字前田1 電話0225-53-3111
2024年10月発行

《宮城県知事、女川町長、石巻市長による女川原子力発電所の視察が行われました》

10月5日、村井宮城県知事、須田女川町長、齋藤石巻市長による女川原子力発電所の視察が行われました。今回の視察は女川原子力発電所2号機について、新規規制基準への対応に伴う安全対策工事が完了した状況および再稼働に向けた準備状況を確認するために行われたものです。

視察では発電所の敷地高台に設置した緊急時対策建屋※¹や海拔29mの防潮堤、2号機原子炉建屋内に設置したフィルタ付格納容器ベント装置※²など、新たに設置した安全対策設備を確認いただきました。視察を終えて、村井知事からは「安全対策がしっかりと着実になされていることを確認することができ、再稼働ができる状態になっていると感じた」などの所感をいただきました。また、須田町長、齋藤市長からもそれぞれ意見をいただいております（概要は以下に記載）。

当社としては、今回いただいた意見を真摯に受け止め、11月上旬を想定している再稼働（発電再開）に向けて、原子炉起動をはじめとした工程を着実に進めていくとともに、安全確保を最優先に全力で取り組んでまいります。

※¹ 大規模な原子力災害が発生した場合の現地対策本部となる指揮所機能の強化を目的に、海拔約60mの高台に設置した耐震構造の建屋

※² 万が一の炉心損傷などの際、原子炉格納容器の過度な圧力上昇に伴う破損を防止するため、原子炉格納容器内の気体の一部を外部へ放出する装置で、放射性物質の放出量を1/1000以下に抑制する

村井宮城県知事

- 発電所の視察は2020年8月以来であり、当時よりもはるかにしっかりと安全対策をされていることに安心した。引き続き、状況を見ながら対策を講じていただきたい。
- 今後、2号機を再稼働することになるが、環境問題を考えても、二酸化炭素を排出しない、安価なエネルギーを供給できる原子力エネルギーへ国が大きくシフトしており、期待しているところ。
- 再稼働まで安全を最優先に、そして再稼働後も気を緩めることなく、何かあった際は直ちに情報公開をしていただきたい。

須田女川町長

- フィルタ付格納容器ベント装置など、各種安全対策設備の工事が完了した状況について確認し、耐震性やその他のリスクに備える対策に着実に取り組まれていると感じた。
- 設備を運用するのは人であり、その人が構成する組織である。これまでも申し上げてきたが、「人を大事にする」ことを強く意識して運営にあたっていただきたい。

齋藤石巻市長

- 震災後13年という時間をかけて進められてきた安全対策の状況が確認でき、大変心強く思っている。
- 再稼働にあたっては安全を最優先にし、今後も予定されている各種試験や検査についてしっかりと対応するとともに、安全性の更なる向上と、地域住民に対する丁寧な説明や情報発信をしっかりと果たしていただきたい。



視察終了後の意見交換
(前列左から齋藤市長、村井知事、須田町長)



緊急時対策建屋内の視察



防潮堤や屋外設備の視察



フィルタ付格納容器ベント装置の視察

《女川2号機における設備の計画外作動や水の漏えい事象について》

女川2号機では9月9日に「燃料装荷」が終了し、現在、原子炉起動に向けて、各種検査・試験、作業などを進めているところです。そのような中、9月中旬に非常用ガス処理系の計画外作動や原子炉建屋における水の漏えい事象※が発生したことについて、地域の皆さま、関係する皆さまにご心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。

当社としては、発生した事象に対する再発防止対策を確実に実施し、同様の事象が発生させることのないよう、引き続き、安全確保を最優先にしっかりと取り組んでまいります。

※事象に係る詳細は当社ホームページに掲載しています

■女川2号機における非常用ガス処理系の計画外の作動に係る原因と対策について
(9月19日公表)

https://www.tohoku-epco.co.jp/news/atom/1245256_2549.html



■女川2号機の原子炉建屋における水の漏えいについて
(9月20日公表)

https://www.tohoku-epco.co.jp/news/atom/topics/1245260_2552.html



《第32回東北電力杯争奪ソフトボール大会が開催されました》

9月8日、女川町総合運動場において、第32回東北電力杯争奪ソフトボール大会(主催:女川町ソフトボール協会、協賛:東北電力 女川原子力発電所)が開催されました。

当日は、発電所員や発電所関係者などで構成された7チームを含む、計15チームが参加。トーナメント方式により東北電力杯をかけた熱戦が繰り広げられました。

決勝では「アベ住建」と「HANGOVER」の対戦となり、4対2で「アベ住建」が勝利。2年連続6回目の優勝を飾りました。



白熱した試合が繰り広げられた

《交通安全活動を実施しました》

9月24日、秋の全国交通安全運動(9月21日～30日)にあわせ、発電所員および協力企業従業員18名が安全運転意識の向上を目的とした立哨活動を行いました。

当日は、飯子浜および野々浜地区において、交通安全メッセージが書かれたのぼり旗を掲げ、往来する車両に安全運転を呼びかけました。

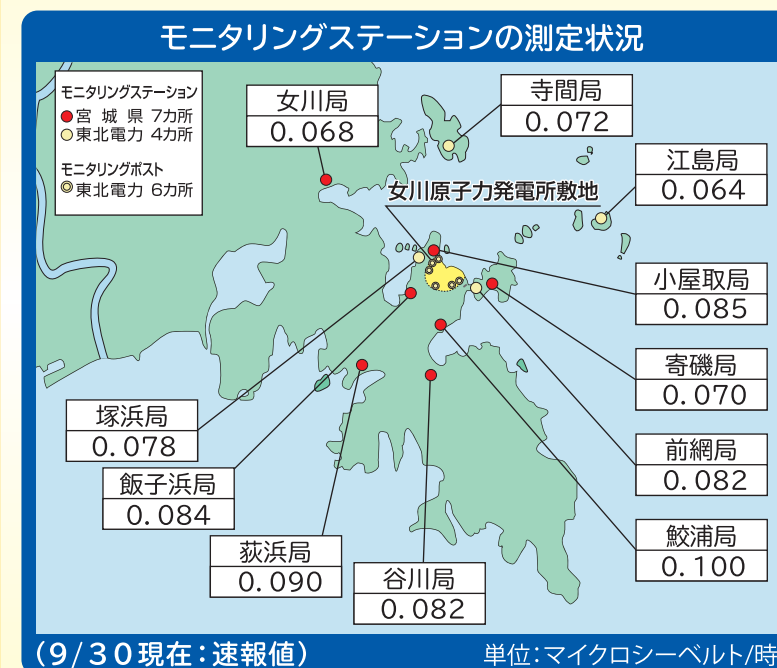


安全運転を呼びかける発電所員と協力企業従業員

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの2024年9月30日の測定値は、最大で0.043マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考)モニタリングポストの最小値と最大値※3

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	
2011年 3月11日	0.027～0.064
〈地震発生後最大値〉	
2011年 3月13日	1.8～21※4
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉	
2012年 4月 1日	0.063～0.098
2013年 4月 1日	0.055～0.076
2022年 4月 1日	0.033～0.045
2023年 4月 1日	0.034～0.046
2024年 9月 1日	0.032～0.044
2024年 9月30日	0.032～0.043

単位:マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02～0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。



再生紙を利用しています